

第39号

発行日  
2021. 6. 18

Super  
Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

## バス関申第7号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」**妥結** **職場の怒りや悲痛な声を最後まで訴え**

6月16日、バス関申第7号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」に対し、会社より「基準内賃金の月額1.3ヵ月」「契約社員Aは月額を1.20倍した額」「契約B及び臨時雇用員は継続雇用期間及び稼働実績に基づき、個別に定めた額」とし、6月29日準備出でき次第支給するとの回答を受けた。

しかし、示された回答は会社発足以来**過去最低回答**であり、一年以上続くコロナ禍での労働実感、年収減と定昇カットによる厳しい生活とモチベーションが低下している現実、切実な声を踏まえた私たちの要求からかけ離れ、**納得がいかない回答**であった。従って、交渉の席で**再考を求めるも**、会社は応じることはなかったため、**回答を持ち帰り**、本日まで議論を深めてきた。そして、回答に対する**職場からの怒りと悲痛な声**を会社に**最後まで訴え**、**苦渋の判断**で**本日妥結**した。

### これが職場の声だ！

- ・娘の学資保険が払えるかどうか。生活費の補填も貯金もできないし、夢も希望もない会社になってしまった。退職者が出るのではないか。
- ・子供の学費が払えない。妻から副業をしないと生活できないと言われた。大幅な年収ダウンでかなりきつい。
- ・会社に魅力が無くなると同時に働く意欲も無くなってしまった。
- ・会社は助成金制度の適用が受けられるかも知れない。しかし、我々にはそのような制度はない。
- ・コロナ感染リスクを背負いながら日々の乗務を完遂している。事務職場、車両職場、乗務に従事する社員は、日々の通常作業・通常業務に追われている。今回の夏季手当の支給額は納得出来ないとともに、これではモチベーションは下降線を辿る一方ではないか。
- ・はっきり言って現場の社員達を無視した回答だと思う。アンケートにも書いたが、家庭は切迫した状態。我々の意見を理解出来ないのか。
- ・会社を黒字にしていくために労使で協力していくべきだ。そのためには自分たちも協力して頑張る。業績が回復した際には、しっかりと社員に還元すべき。今回が厳しい分、還元する割合をアップする判断をすべきだ。

バス関東本部は、最後まで職場の声を訴えたが「会社発足以来の経営状況を勘案した厳しい判断」との一貫した姿勢を崩す事はできず、過去最低回答での苦渋の妥結判断となった。**改めて経営幹部は、職場の「怒りと悲痛な声」を重く受け止めるべきである！**全組合員のみなさん、21春闘から夏季手当までの闘いを総括し、怒り・悔しさ・危機感をさらに高め、課題を明確にし、年末手当等のたたかいをつくり出していきましょう！

そして、**昨年の再建委員会以降のたたかいを全組合員で捉え返し、渦中にある過半数代表選勝利！ JRバス関東本部第34回定期委員会の圧倒的成功を勝ち取るうではありませんか！**

**最後まで支えていただいた、全組合員と家族の皆さんに感謝申し上げます！**

**怒り 悔しさ 危機感 をバネに更なる闘いをつくり出そう！**

**今こそJRバス関東本部への更なる結集を勝ち取ろう！**